

タンポポって何色？

飯能市立博物館 学芸職員 岸 裕介

2025年の3月は雪が多く、草木の芽吹きも少し足踏みしていた印象でしたが、春の訪れとともにタンポポの花が咲き誇っています。身近な植物、タンポポ。皆さんの知っているタンポポの花の色は何色ですか？私にとっては東京から飯能市に引っ越してくるまでタンポポといえば黄色いセイヨウタンポポでした。多くの方にとっても黄色いタンポポはなじみのあることでしょう。でも、飯能市立博物館のまわりで春真っ先に咲き始めるのは、なんと白いタンポポなのです。

このタンポポは、日本の在来種で和名を「シロバナタンポポ」といいます。日本国内で見られる20種類ほどのタンポポのひとつです。外見はセイヨウタンポポと同じでギザギザの葉っぱもそっくりですが、花が白いので見分けは簡単です。しかし真っ白というわけではなく、よく見ると花びら（正確には花冠）は白で、雌しべと雄しべは黄色と繊細な色分けがされていることがわかります。また、花冠が多くぼてっとしたセイヨウタンポポの花よりも花冠が少なめですっきりした印象です。ほかのタンポポよりも早い時期から咲き始め、葉は淡緑色で比較的大きくて生長すると斜めに立ち上がってくるのも特徴です。

シロバナタンポポにはもうひとつ大きな特徴があります。それは、ほかの在来タンポポは花粉を虫に運んでもらって受粉すると結実するのですが、シロバナタンポポは染色体数が多い5倍体なので受粉しても結実しません。しかし無融合生殖という方法でクローンをつくって増えることができます。ちなみに外来種であるセイヨウタンポポも染色体数の多い3倍体で、シロバナタンポポと同じく無融合生殖で増えます。このクローン作戦でセイヨウタンポポは都市部において在来のタンポポを圧倒しています（在来タンポポとの雑種も多い）。シロバナタンポポが多くないのは、都市部のような裸地や荒地よりも自然の残る人里のような環境を好むことや、セイヨウタンポポに比べタネが重く、それほど遠くに飛んでいかないためとも考えられます。

シロバナタンポポは関東地方から西の地域に分布していて、特に九州や四国地方に多く、地域によってはタンポポといえば白というところもあるそうです。関東地方では点々と存在し、あるところにはあるがないところにはないという不思議な分布をしています。飯能市では入間川に沿った地域で見かけることができます。天覧山の周辺ではセイヨウタンポポ、シロバナタンポポ、カントウタンポポと3種類のタンポポを見比べることができます。みなさんのまわりではどんなタンポポが咲いていますか。



セイヨウタンポポ



シロバナタンポポ



カントウタンポポ